

2. 堆肥の利用状況

▶ 肥料利用量推移（年間）

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
化成肥料	13	19	51	58	60	54	62	68
鶏糞堆肥	32			25	63	207	220	230
牛糞堆肥							50	130

単位は t

▶ 利用状況

- ・ 令和4年の肥料価格高騰から元肥を鶏糞に切り替え
- ・ 散布量増加に伴いペレット→マッシュに変更
- ・ 散布方法をブロキャス→マニアスプレッダーに変更

2. 堆肥の利用状況

▶ 肥料価格推移（年間）

	規格	2021	2022	2023	2024
コーティング肥料	20kg	2,916	3,650	4,580	3,780
高度化成	20kg	1,445	2,860	2,600	1,900
鶏ふん	600kg	3,000	3,000	3,000	3,300

価格は税抜き

▶ 資材費の削減効果（10a）

	2021	2022	2023	2024
水稻	2,166	2,900	3,830	2,955
小麦	965	2,380	2,120	1,222

価格は税抜き

2. 堆肥の利用状況

▶ 堆肥散布に係る固定費（10a）

	使用機械	作業時間（分／10a）
化成肥料散布（水稻）	田植え機（側条）	2
化成肥料散布（小麦）	ドリルに連結	2
堆肥散布	マニアスプレッダ	4～6×3人

	人件費	減価償却	合計増加コスト
水稻	300	800	1,100
小麦	480	1,200	1,680

単位は円

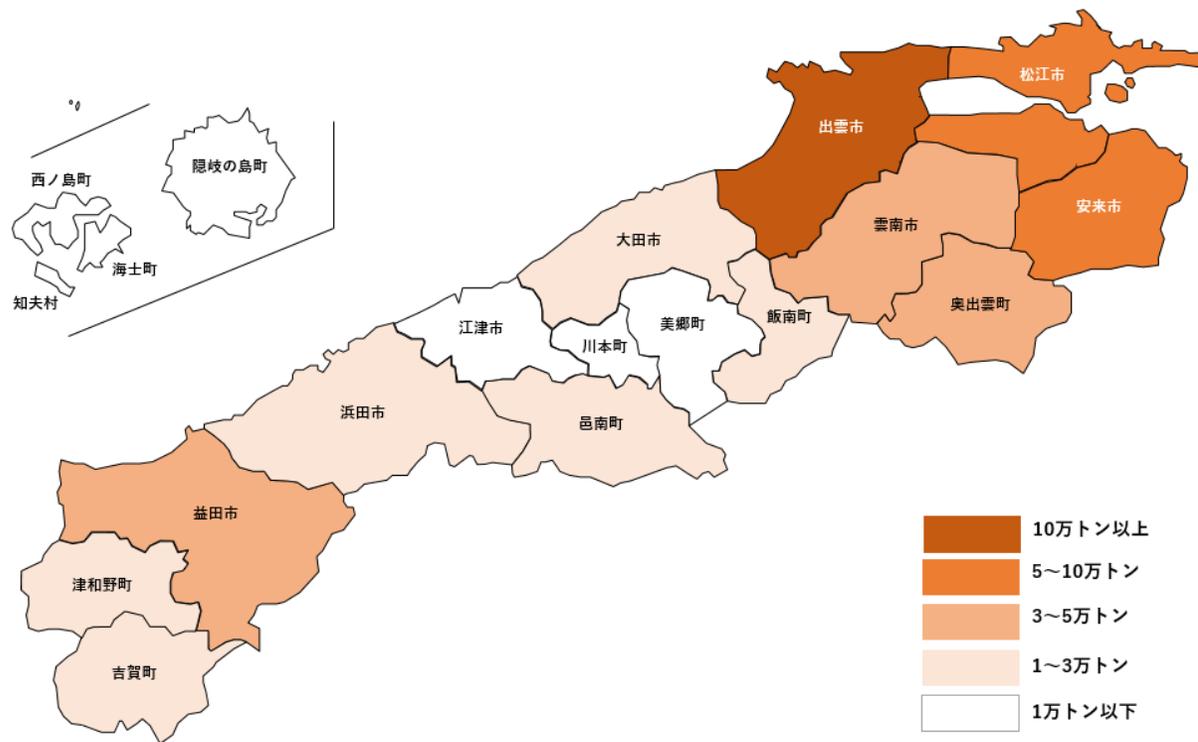
▶ 資材費の削減効果（10a）

	2021	2022	2023	2024
水稻	2,166	2,900	3,830	2,955
小麦	965	2,380	2,120	1,222

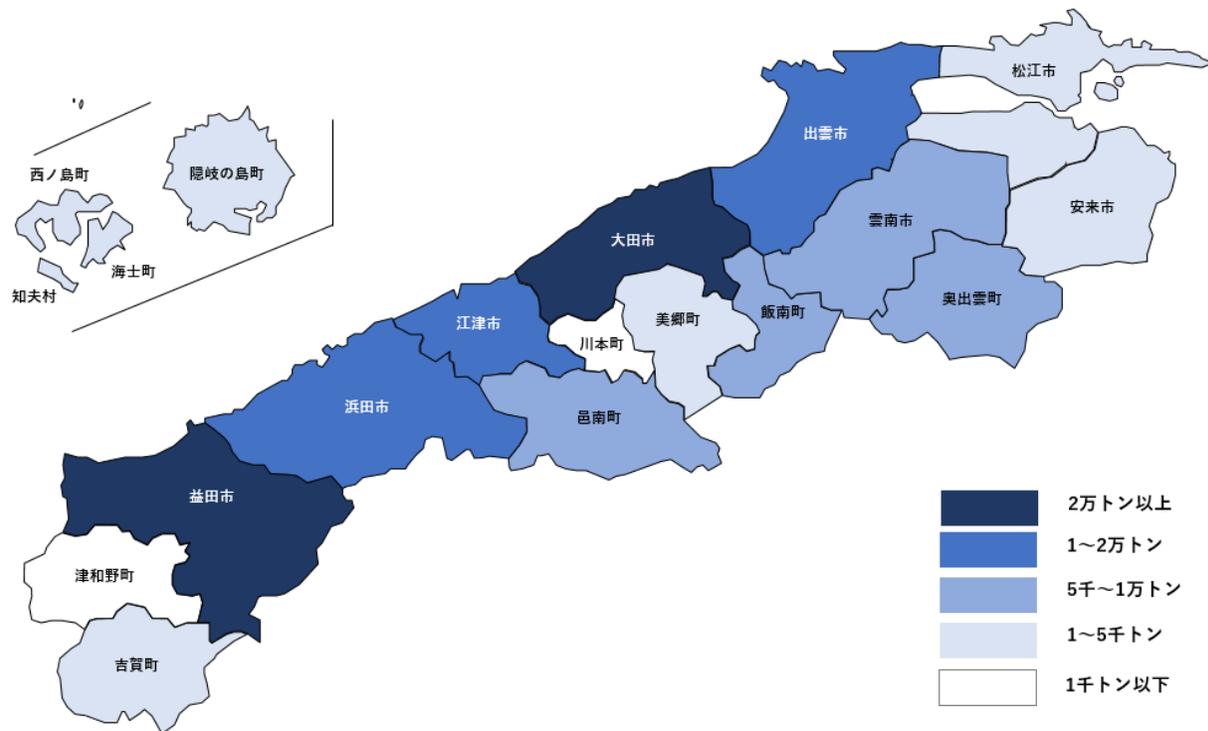
価格は税抜き

3. 堆肥供給の状況

▶家畜ふん堆肥の潜在需要の分布



▶家畜ふん堆肥の生産分布



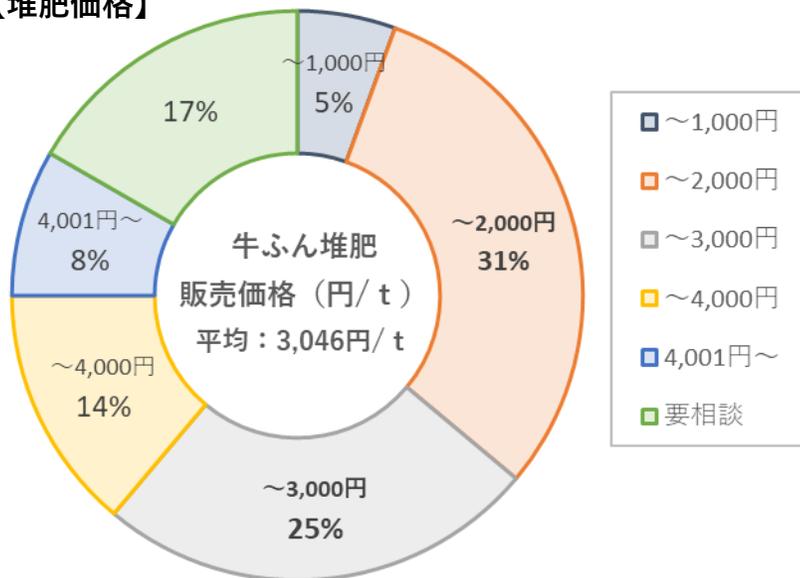
3. 堆肥供給の状況

▶島根県堆肥マップの公開情報集計

【掲載件数】

堆肥の種類	掲載数
牛ふん由来	48
鶏ふん由来	7
豚ふん由来	3
木質系由来	3
その他（複数販売）	1

【堆肥価格】



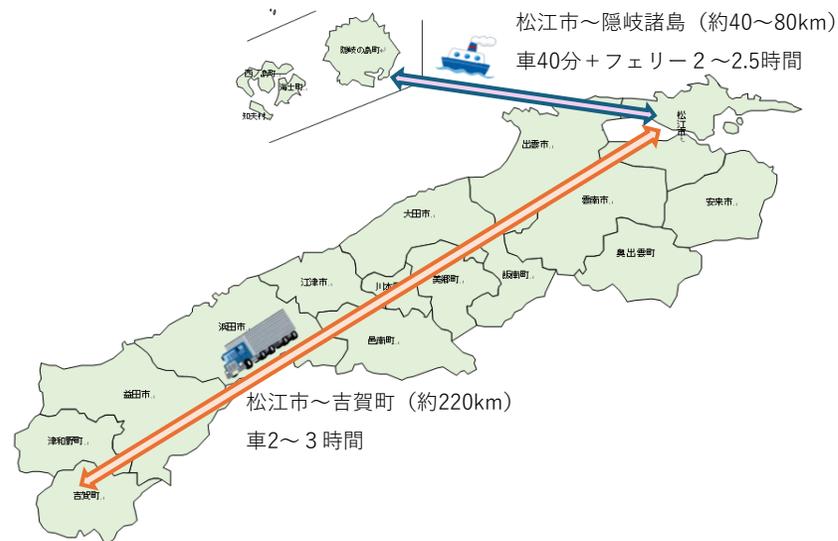
※畜産課調べ（R6.4.1時点の堆肥マップ掲載情報「牛ふん堆肥」のうち36件）
平均は要相談を除いた30件の価格

【配送】

堆肥の種類	掲載数	配送不可	配送可		
			条件あり	条件なし	要相談
牛ふん由来	48	0	30	1	17

配送条件

- ・町内、市内、地域内
- ・片道〇分以内
- ・〇袋以上の注文のみ



4. 耕畜連携の状況

市外の肥育農家さんと連携

- ・ 麦わら（1 t） = 堆肥（1 t）
- ・ 稲わら（1 t） = 堆肥（4 t）
- ・ わらの収集に関する作業、使用機械は畜産農家さんが負担
- ・ 堆肥の散布は弊社が行う

4. 耕畜連携の状況

水田活用の直接支払交付金（産地交付金）

【概要】

市町村が策定する「水田収益力強化ビジョン」に基づき、地域の特色をいかした魅力的な産地づくりに向けた取組を支援。
→松江地域農業再生協議会は17項目を設定



【項目7：資源循環（耕畜連携助成）】

①助成対象者

販売農家又は集落営農組織

②助成対象作物

WCS用稲（基幹作）

③助成対象の取組（抜粋要件）

- ・新規需要米取組計画の認定を受けていること
- ・連携の相手方と3年以上の利用供給協定を締結すること
- ・**当該年度における堆肥の散布の取組である**こと
- ・堆肥を散布する者は、畜産農家またはその他の委託を受けた者（交付対象者以外）により行われること
- ・原則、堆肥の散布量が10a当たりで2t又は4m³以上であること

④助成単価

8,000円/10a（上限：13,000円/10a）

県産水田粗飼料利用拡大推進事業（県単）

【概要】

県産水田粗飼料の利用拡大に向け、畜産農家と耕種農家が連携して水田粗飼料を生産する取組を支援。

①助成対象者

畜産農家

②助成対象作物

稲WCS、牧草、稲わら



③助成対象の取組（抜粋要件）

- ・畜産農家の県産粗飼料利用量がR4年度よりも拡大すること
- ・畜産農家は県内の耕種農家等と3年以上の飼料購入（利用供給）契約を締結すること
- ・畜産農家と耕種農家で連携し、品質改善、反収増加に取組んでいること

～取組例～

栽培期間中の圃場確認（収穫適期判断、雑草混入軽減等）、
収穫調製時の現場確認（土砂等混入防止、梱包・搬送時破損軽減等）、飼料品質に係る情報提供、**堆肥散布**等

④助成単価

③の取組により生産した作物のうち、

- ・稲WCS、牧草（トケモコシを含む） 16,000円/2,500kg
- ・稲わら 4,000円/300kg

5. 課題

▶ 耕種側が「堆肥」に求めること

- ・ 完熟で安定した品質
- ・ 安定供給（長期的に攻守農家を満たせる）
- ・ 価格の低下（売上げに対して3%以内）

▶ 利用を拡大するためには

- ・ 10a粗利額を上げる（農地の利用率を上げる）
- ・ 堆肥散布作業を高効率に
- ・ 使用時期を分散させることで運送、ストックの問題を最小限に
- ・ 補助事業が現状では不可欠